

子供たちにダンゴエサ作りを教える黒川さん



果だけにこだわるのではなく、「釣り人との和」を楽しみなさいと常々言っています。私自身も釣り人とのコミュニケーションの中で美に多くのことを学び、楽しい時間を過ごさせてもらいました。鯉釣りを楽しむなら人に迷惑をかけるな、自分で納得した釣りをすることです。釣り場のゴミをなくし、綺麗な環境で釣りをするのはもちろん、まず、人に挨拶をする人間としての基本を忘れてはなりません。お互いに初めて会っても挨拶



木曾三川の大会は寒波の影響で最悪の天候だったが、最後まで諦めないで攻め続けて釣り上げた長良川の鯉、お見事

黒川毅の鯉釣りスタイル

王者の風格、パワーの巨鯉を配合エサで寄せて釣る醍醐味

釣り人との交流、出会いを楽しみ最後まで諦めない攻めの釣りを

鯉釣りの魅力は人によってそれぞれ違います。私は鯉が国魚であるということ、端午の節供の鯉のぼりなど、日本人にとって身近な魚であると同時に、力強く風格のあることに魅力を感じ、この淡水の王者に真摯に挑んでいます。

私は一人で静かに鯉釣りをしたいのですが「淡水大魚研究会」の会長という立場があり、マルキューのインストラクターでもありますが、釣り人との交流の機会が多くなかなかそうもいきません。しかし、鯉釣りの魅力は大物を追い求める夢と同時に、多くの釣り人との交流、出会いにあるのです。

故 小西茂木さんから引き継いだ「淡水大魚研究会」でも、会員には釣技、釣れる配合エサを豊富に揃えています。最初はそれらの配合エサで気軽に鯉釣りを楽しみたい。 「コイミー」「鯉のぼり」など、単品で鯉の強い引きに翻弄され、鯉という魚にこだわるようになったら、自分で配合エサのブレンドを考えるのが面白くなります。鯉釣りが面白いと解ればバス釣りのように若い仲間がもっと増えるはず

北浦、霞ヶ浦が関東の鯉釣りの重要な発信地で、脚光を浴びるのは時代の流れですが、あまり情報だけに流されてしまっただけではありません。メーターオーバーが数多く釣れるのは鯉釣りフリークにとっでは大変喜ばしいことです。しかし、鯉釣りが一部のマニアだけの釣りになってしまつことには危惧を感じます。

あくまでも趣味の世界で鯉釣りを楽しんでいるのですから、自然体が一番です。それで鯉が釣ればもう最高だと思いません。

挨拶を交わせれば気持ちが良く、次に会った時により親しみが湧き、楽しい時間を過ごせます。

鯉釣りは待ちの釣りですが、ただ待つだけでなく、いかにしたら鯉が釣れるか考えるプロセスが、鯉釣りの楽しみであり面白さなのです。植物性の配合エサで待つ大物狙いや、動物性の配合エサの匂いで寄せる数釣りも面白い。釣果だけにこだわってもいけません。いつも攻めの鯉釣りを展開し、決して最後まで諦めないで努力することも大切です。

ビギナーは難しく考えないで鯉釣りを楽しむことが大切！

大物の鯉だけでなく何でも釣って楽しむという気持ちで、鯉の吸い込み釣り、ウキ釣りには必要なかも知れませんが、ビギナーが鯉釣りをするには高価なタックルは必要ありません。最初は安価なタックルで、鯉だけでなくフナ、ニゴイ、ナマスなど、いろんな魚を釣って楽しむことです。



ビトン式の竿立てにしっかり竿をセットして準備完了

個人的に大好きな「イモ吸い込み」、全体の約20%も大粒のイモのチップを配合した、植物性素材が中心の吸い込みエサです。

昔から鯉釣りのエサとして使われてきた、さつまいものみじん切りの粒と香ばしい麦が多く入っているというのが、私が「イモ吸い込み」を大好きな最大の理由です。

私は「イモ吸い込み」だけはなるべく単品で使うようにしています。その理由は、他の匂いの強いエサをブレンドすると「イモ吸い込み」に入っている香ばしい麦の甘い香りが失われてしまうからです。どうしても「イモ吸い込み」に他の配合エサをブレンドしたい時は、「鯉パワー」「鯉将」など、匂いの少ない植物性素材が中心の配合エサを混ぜると良いでしょう。

私は「イモ吸い込み」は川(特に大川)で釣果を上げてきました。流れの強い川



投時点を見る目が真剣そのもの、狙うポイントに正確にキャストイングする

黒川流、鯉釣りの楽しみ方は「イモ吸い込み」で攻めて釣る

「一日一寸」と言われた鯉釣りは難しいようで簡単、簡単なようで難しい釣りですが、魚の食い気、活性で釣果が決まります。そういう条件に合った時に、上手く配合エサで寄せて狙って釣るといことが大切なのです。

よく釣り人から「エサの種類が多いがどれを使ったら良いのでしょうか?」と質問を受けます。

全国各地で愛用者が多いベストセラーの「大い」や人気のある「鯉パワー」など、マルキューの配合エサは、動物性植物性どちらも単品だけで充分釣れます。

しかし、釣り人の自分だけの配合というこだわりを満たすためには、それぞれ自分の好みで構いませんから、自分なりに工夫してブレンドする楽しみを味わって欲しいと思います。ただ、注意しなくてはならないのは、それぞれのエサの特性を考慮して、そのエサの利点を損なわないようにすることです。

今まで大物志向が強いベテランはジャミを避けるために植物性のエサをメインに配合して大物を狙っていました。私が

黒川 毅

プロフィール

昭和15年、千葉県南房総に生まれ、埼玉県在住。鯉釣り一筋37年。昭和43年、淡水大魚研究会入会、現在に至る。
平成3年、全国野鯉釣露ヶ浦大会優勝。
平成8年、全日本野鯉釣八郎潟大会優勝。
淡水大魚研究会会長、埼玉県鯉釣り指導員、(財)日本釣振興会埼玉県支部役員、マルキューインストラクター。

でも、麦の香ばしい香りの効果と、さつまいもの粗い粒の比重の大きさによる、長時間底に残る効果が現われたからではないかと推測しています。私の場合、なぜか湖沼より川の方がアタリをもらう確率が高く、良い釣果が出ているというデータがあります。



+



配合エサの作り方

エサで重要なのは
固くてバラケやすいこと

私は基本的に釣り場によってエサを変えることをほとんどしません。ただ、晩秋で霜が降りて来ると同時に「タニシ吸い込み」のような動物性のエサをメインエサで使うか、「鯉パワー」のような植物性のメインエサに動物性のエサを加えたり「鯉にこれだ!!」のような集魚力の強い添加材を混ぜて使います。また、大川のように流れがある川ではある程度、エサに粘りを出すように工夫しています。

配合エサをいちどに作ってしまうと含まれている大粒なエサに水分が吸収されてバサバサになってしまう。そのまま握ってダンゴにすると空中分解してしまうので、水を加えるか、繋ぎとしてさつまいもが大量に入っている「鯉武蔵」を少々入れるかして使うと良いでしょう。

遠投の場合のみ、理想のエサの作り方としては投げるたびに作るのが

竿を出す場所を決めたら竿立ての周りの草をかまて刈り、竿立てを刺す



実績では「鯉パワー」「巨鯉」 今後は楽しみ「タニシ吸い込み」

私はマルキューのインスタラクターという立場上、いろんな配合エサの試作品のテストを重ね、実際に鯉釣りをしてきました。一番釣果が出た配合エサは「鯉パワー」と「巨鯉」です。

最近のタニシブームにより、鯉釣りはダンゴを打って待つだけでなく、配合エサを多く打ち込んで寄せて釣るという基本方向が変わってきたようです。

「タニシ吸い込み」はタニシ粉末とタニシペレットが配合され、タニシ特有の強い匂いでジャミも寄せ、大物も寄せる。何でもいらっしやいという画期的な配合エサです。

ジャミがタニシの強い匂いで寄り、ダンゴを突いてダンゴがバラける手助けをしてくれる。小魚が寄らないエサなら大物も寄りません。ジャミが安心して食べているのを大物は離れて見えています。大

ベストです。

エサで重要なのは固くてバラケやすいということ。手水を付けて締め、表面を固くする。ダンゴを作ったすぐ投げないで4〜5分置いて馴染ませます。エサ袋に表示してある水の分量はあくまで単品で使用する場合の目安です。他のエサを加えた場合は当然、水の量も増やします。各自の好みで投入時に割れない硬さにします。

川と湖沼の場合でも多少違います。流れのある川の場合は材料をよく混ぜ、水を少し入れ若干粘りを出す。止水域の湖沼ではバラけたエサが底に留まるので早くバラけるようにする。ダンゴのバラケ具合を見るためにバケツの中の水にダンゴを入れ、バラケの時間と崩れ方を観察する。バケツと実際のポイントとは当然異なるので、あくまで目安として参考にします。

ダンゴが水分が多くて柔らかかったり、手水を付けてしっかり握り固めないと、着水時にダンゴが割れます。硬さを確かめるには、握ったダンゴを頭上から地面に落として割れなければ良いでしょう。

物ほど警戒心が強く、警戒心を解くという意味でもジャミは大歓迎なのです。大物志向が強い私も「タニシ吸い込み」をメインエサとして使用し、鯉とアオウオの釣果を上げています。

「タニシ吸い込み」の絶大な効果が発揮され、巨鯉が釣れたという情報が各地から続々と寄せられています。利根川では「タニシ吸い込み」のダンゴにくわせにタニシを付けて、160cmの巨大アオウオが釣られました。また千葉県の実亀川では「タニシ吸い込み」も「巨鯉」とくわせに「手づくり芋」を使ってアオウオが釣られており、これらが楽しみエサです。

竿を伸ばす時、ズれないようにガイドの位置を合わせる



黒川流、配合エサのトレンド

大川を攻める時の配合エサ

Aパターンは、粗びきで長く底に残り、流れに強い「巨鯉」をメインで使い、植物性素材が中心で集魚力が高く重い粗粒素材配合の「鯉パワースペシャル」をブレンド。川の流れに応じて好みの硬さに仕上げられるようにサツマイモを大量に配合した「鯉将」を混ぜます。「スーパー鯉むぎ」は比重があり、沈下して底に残るので大鯉を強力に寄せます。

Bパターンは、大粒のイモのチップが多く、水底にしっかり残り大物の回遊を待てる「イモ吸い込み」をメインで使用。植物性素材が中心でジャミに強い「鯉パワー」を加え、川の流れに応じて「鯉将」を少し混ぜて好みの硬さに仕上げるのがベスト。
* 大川の場合、流速にもよりますが、約30分程度でバラけるように、やや粘りを出して固めに握ります。

Aパターン

- 巨鯉.....1袋
- 鯉パワースペシャル...1/2袋
- 鯉将.....1/3袋
- スーパー鯉むぎ.....1/3袋

Bパターン

- イモ吸い込み.....1袋
- 鯉パワー.....1/2袋
- 鯉将.....少々

くわせは「くわせコーン」または「手づくり芋」(1cm角に切って使用)

湖沼の釣り場を攻める時は、集魚効果を高めることを考え、水は控えめにしてバラケ具合を調節して練ることが大切です。くわせ用の「手づくり芋」と「いもようかん」とも、エサ持ちをよくするために冷蔵庫で3〜4日間乾燥させて固さを調整します。

湖沼を攻める時の配合エサ

Aパターンは、流れの少ない湖沼用に粗びきで長く底に残る「巨鯉」をメインで使い、植物性素材が中心でジャミに強い「鯉パワー」を加えます。また厳選された大粒のムギとコーンが入った「ムギコーン」を混ぜて、大物の食い気を誘います。

Bパターンは、匂いの強いタニシペレットが入った「タニシ吸い込み」をメインで使い、植物性素材が中心で巨鯉狙いに実績のある「鯉パワー」をブレンド。サツマイモが主成分の「鯉武蔵」を加え、サツマイモ独特の甘味とネバリで巨鯉を狙います。

山上湖を攻める時の配合エサ

川や湖沼のブレンドと基本的には変わりません。山上湖は攻められていないポイントが多く、鯉もエサ慣れしていないので、匂いの強烈な「タニシ吸い込み」をメインに使用します。「鯉将」「鯉武蔵」「スーパー鯉むぎ」などを加え、鯉をできるだけ早く寄せられるようにします。

* 山上湖では藻が多い所もあるので、「藍藻」配合の「みどり」などを混ぜても面白いでしょう。

Aパターン

- 巨鯉.....1袋
- 鯉パワー.....1/2袋
- ムギコーン.....1/3袋

Bパターン

- タニシ吸い込み.....1袋
- 鯉パワー.....1/2袋
- 鯉武蔵.....少々

くわせは「くわせコーン」または「手づくり芋」(1cm角に切って使用)

Aパターン

- タニシ吸い込み.....1袋
- 鯉将.....1/2袋
- 鯉武蔵.....1/2袋
- スーパー鯉むぎ.....1/3袋

くわせは「くわせコーン」または「手づくり芋」(1cm角に切って使用)

「巨鯉」「イモ吸い込み」「タニシ吸い込み」のメインエサにブレンド、さらに集魚効果を高め、釣果アップをサポートする鯉釣りエサのラインアップ。

くわせは「手づくり芋」と「くわせコーン」を併用



湖沼を攻める時の配合エサ、Bパターン



おにぎりの大きさにダンゴを整えたら割れないように仕掛けを引く



完成したダンゴはケースに入れて運び、竿にセットし投入する



「鯉パワー」1/2袋を入れる

「鯉武蔵」を少々入れる

エサを均等によくかき混ぜる

釣り場の水をかけてバサバサの状態に仕上げる

大川のBパターンは、さつまいもの粗い粒と麦の香りが、長時間底に残る「イモ吸い込み」をメインに使うので、流れに強い大川には最適です。湖沼のBパターンは、鯉が越冬するための体力維持と乗っこみ期の体力回復に必要な動物性素材配合の「タニシ吸い込み」をメインに使うので、早春と晩秋に最適です。

黒川流、配合エサ作り



「タニシ吸い込み」「鯉パワー」「鯉武蔵」を使用



メインエサの「タニシ吸い込み」を1袋入れる

大川を攻める時の配合エサ、Bパターン



両手に水に付ける

それぞれ付けエサを練りエサで包み込む

手に水を付け、2個のダンゴを合せて一つに握る

ダンゴの形を整えて完成



手でよく掻き混ぜる

釣り場の水をかけてバサバサの状態に仕上げる

くわせの「手づくり芋」を1cm角に切ってハリに付ける

もう片方のハリに「くわせコーン」を2個抱合せて付ける



「イモ吸い込み」「鯉パワー」「鯉将」を使用。食いの悪い時には「鯉」にこれだ!!」を混ぜることもある



「イモ吸い込み」を1袋入れる

「鯉パワー」を1/2袋入れる

「鯉将」を少々入れる

くわせエサ

「手づくり芋」は簡単で便利！
寄せエサとくわせエサは同じ方が良い

鯉は配合エサで寄せて釣るのが基本です。吸い込み釣りのようにダンゴにくわせなしで釣る釣り方もありますが、私はくわせで鯉を釣るといふことにこだわっています。従って、くわせエサには特に気を使います。

私はくわせは主に「手づくり芋」を使います。「イモ吸い込み」には「手づくり芋」というように、基本的に寄せエサとくわせエサは同じものの方が良いのです。「手づくり芋」は釣りの間でも人気のエサで、適当の大きさに切って使います。もちろん、切ってすぐ使えますが、エサの固さにこだわる人は天日に干したり冷蔵庫で保存し乾燥させ、固さを調整して使います。

昼間はアタリを見て集中して攻めるため、投入時間が短いので軟らかめを使います。夜間は仮眠をとるためエサ交換が長くなるので固めを使用します。

保存の際には、あまったエサはそのままだしておくとかびが生えるので、ビンの中に入れて冷凍します。固くなった芋を軟らかく戻すには、芋を水の中にジャブんと浸けてビンに入れ、密封して置けば半日で元の軟らかさに戻ります。

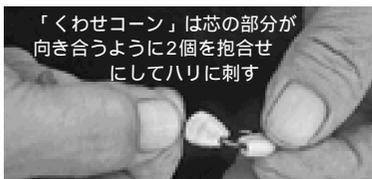
くわせエサはハリ先を完全に出します。その方がハリ掛かりが良いからです。芋は水の中で水分を吸収して膨張するので、膨張率を考えてエサの大きさを決めます。



くわせエサは「手づくり芋」と「くわせコーン」を使用



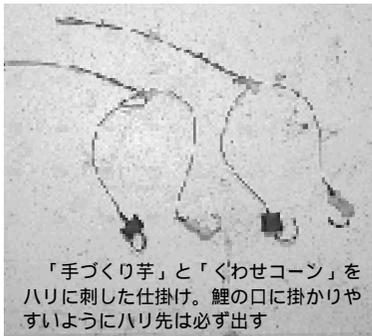
「手づくり芋」は水分を吸収して膨張するので膨張率を考え、適当な大きさに切って使う



「くわせコーン」は芯の部分が向き合うように2個を抱合せにしてハリに刺す



ハリ先を爪に当てハリ先の鋭さをチェック。軽く引いて止まるようであれば良く、滑るようならハリ先は必ず鋭く研いでおく



「手づくり芋」と「くわせコーン」をハリに刺した仕掛け。鯉の口に掛かりやすいようにハリ先は必ず出す

タックルと仕掛け

黒川流、仕掛けのこだわり
掛かりに有効な遊動式くわせ2本バリ

私の仕掛けも少しずつ、よりシンプルに変わってきています。最近、主に使用するのは掛かりの多いポイントに有効な遊動式のくわせ2本バリ仕掛けです。その

ハリ先の鋭さをチェックするにはハリ先を爪に当て、軽く引いて止まるようであればOK。滑るようならハリ先は必ず鋭く研いでおきます。

最近のこだわりとして管付きのハリを使います。その理由は管付きのハリはリング状になっているので、ハリスがチモトで切れる確率が少なく、きつく結ぶ必要がないからです。

ダンゴに負担が加わり、空中分解の原因になります。また、鯉釣りは向こう合わせが多く、重めのオモリを使えばハリ掛かりする確率が上がり、バラシが少ない利点もあります。

私が現在、最も多く使用しているのは自作の船底型オモリの35号です。船底オモリは遠投に適しているばかりでなく、仕掛けを巻き上げる時に浮いてくる形状になっていて、仕掛けを上げる時に根掛かりが少なく、失う確率も低いのです。

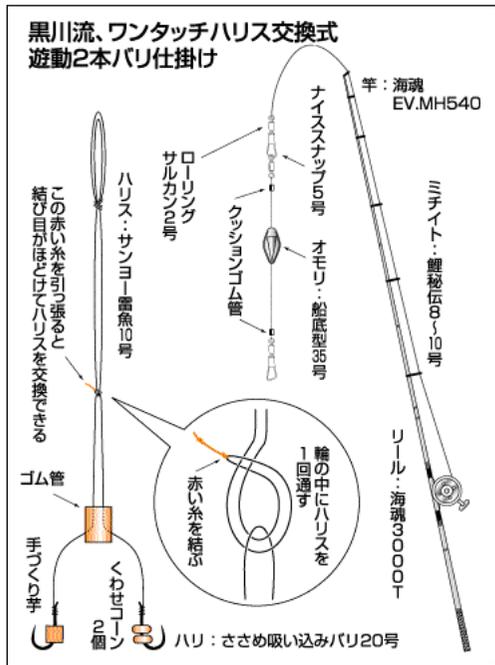
の2本のハリに「手づくり芋」と「くわせコーン」の2種類のくわせを付けて使っています。そして釣り場、気象状況などで、鯉がどちらのエサを好むかを判断するのです。その時、食べたエサが一目で解るように2種類のハリを変えて使っています。

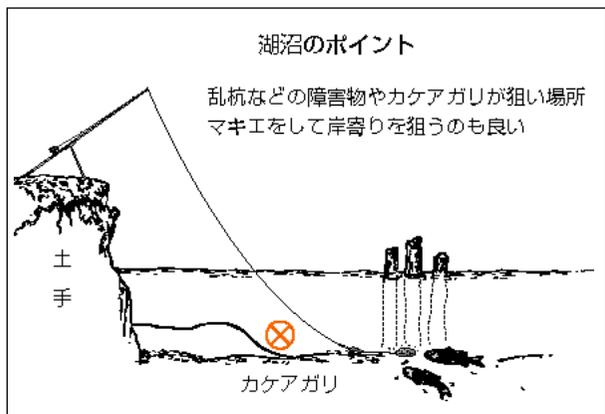
オモリは鳥型オモリなどいろいろな種類があります。25号、35号くらいを使つと良いでしょう。あまり軽めのオモリを使うとダンゴとのバランスが取れず、ダ

ハリは18〜20号くらいのもので強度のある編み糸が有効です。巨鯉狙いであれば仕掛けにラセンなどは使わず、鯉がエサを食べる時に違和感を与えない、できるだけシンプルなものが良いといえます。

ハリは18〜20号くらいのもので強度のある編み糸が有効です。巨鯉狙いであれば仕掛けにラセンなどは使わず、鯉がエサを食べる時に違和感を与えない、できるだけシンプルなものが良いといえます。

ハリは18〜20号くらいのもので強度のある編み糸が有効です。巨鯉狙いであれば仕掛けにラセンなどは使わず、鯉がエサを食べる時に違和感を与えない、できるだけシンプルなものが良いといえます。





まずオモリだけで
沖合いに遠投する



オモリが着底したら、リー
ルをゆっくり巻ながらオモリ
を手前に引き寄せる



オモリが軽くスッと寄れば
底が平坦で変化が少ない。ハン
ドルがジワリと重くなり、竿先
が大きく曲がる所がカケアガリ

カケアガリ

す。オモリが着底したら、リールをゆっ

カケアガリと水底の状態を探る オモリを投げ水深を把握するのも重要

カケアガリの見分け方には30
〜40号のオモリだけを沖合いに
向かって遠投する方法がありま
す。オモリが着底したら、リールをゆっ

くりと巻きながらオモリを手前に引き寄
せます。オモリが軽くスッと寄って来
る所は底が平坦で変化が少なく、また反
対にハンドルがジワリと重くなり、竿先
が大きく曲がる所があれば、間違いなく
カケアガリとなっています。

カケアガリを探る時には遠投と正確さ
が要求されるので、日頃からキャスト

ングの練習をしておきましょう。

カケアガリだけでなく、水底の状態を
探るのも重要で釣果を大きく左右します。
ポイントの底がヘドロ、砂地、岩盤なの
かは、ミチ糸にテンションをかけ、水底
を引きずった感じで把握します。

ヒキナーにはなかなか難しいので、底
の状態が見える陸地でオモリを引きずっ
て感覚を掴むと良いでしょう。また、オ
モリを投げてオモリが水面から底に到達
するまでの時間で、水深もある程度調べ
られます。

ポイント

川、湖沼、山上湖の攻略で 一番重要なのはポイント！

上湖
それぞれ狙うポイントに共通点か

鯉釣りで一番重要なのはポイ
ントの選択です。川、湖沼、山
上湖

ありますが、季節によって狙う場所が変
動します。

初めての釣り場でポイントを決める目
安としては、鯉のハネ、モジリがある
か？ 風はどの方向から吹くか？
浅場に藻があるか？ 湧き水や流れに
よる水温の変化などがあります。



鯉釣りはポイントが大事、数年ぶりに竿を出す新利根川で
ポイントをチェックする

川の場合は流れがキーワードです。川
の中心は流れが強く、ゴミが流れて釣り
にならないこともあります。川はほとん
ど遠投の必要がなく、投げてませいぜい
40m位で対岸か手前の岸際を攻めます。
鯉は習性としてエサとなる小動物が多
い障害物の付近を生息の場としているの
で、橋脚周り、乱杭、オダ、テトラ、捨
石周り、カケアガリなどが狙い場所とな
ります。

湖沼では障害物がある人が攻めたがら
ないオダや杭回りが狙い目です。そとい
うポイントは遠くにあり遠投が必要です。

ポイントは浅場の藻の周辺、水の流れ込
み、水門、オダやドックなどです。どの
ポイントも底を探り、カケアガリを狙う
のがセオリーです。

山上湖やダム湖は季節による気温の変
化と水深の変動が激しく、ポイントの絞
り込みが難しくなっています。アタリが
ない時は水深の違う所を狙うか、匂いが
強く集魚力のある配合エサに変え、エサ
の打ち返しを繰り返しましょう。

山上湖は春から夏までがベストシーズ
ンです。気温5度〜10度と涼しい山上湖
の釣りにちマレンジしてみましよう。

警戒心の強い鯉は危険を察知したら障
害物の中に逃げ込めば安全だということ
を本能的に熟知しています。鯉がヒット
しても障害物があると取り込みにくいの
ですが、難しいポイントを攻めないと高
釣果は望めません。

昔から鯉はカーブを釣れと言われてい
ますが、私は鯉を釣るならカーブと障害
物を釣れと言いたい。難しい場所です釣
り上げてこそ価値があり、満足感が味わ
えるのです。

「タニシ吸い込み」で利根川のアオウオ2本を釣り上げた。アオウオと共に記念撮影でご満悦の黒川会長



利根川でアオウオ2本をゲット!

「タニシ吸い込み」で豪快なアオウオ釣りを楽しむ

今から数十年前までアオウオは減りにハリ掛かりせず、幻の巨大魚と言われました。しかし、利根川で増殖が繰り返されて魚影も濃くなり、最近では初心者でも比較的簡単に釣れるようになりました。

私の所属する「淡水大魚研究会」でもアオウオに初めて挑戦して型を見ることができた会員が数名います。私は湖沼より、流れのある大川の方が鯉の強い引き、鯉釣りの醍醐味が味わえて好きです。それと川の風景

釣り方

ポイントに匂いの強い寄せエサを打ち 配合エサのダンゴで攻めの釣りを展開

釣り場に着いたら一刻も早く竿を出したい気持ちは解りますが、まず竿を出す前にポイントに魚を寄せることが重要です。匂いが強く集魚効果の高い寄せエサを欠かしたら絶対に高釣果は望めません。

寄せエサは各自の好みで配合すれば良いのですが、粒子が粗めで比重が重くいつまでも底に残り、長時間の集魚効果を持続できるエサが有効。匂いの強い「タニシ吸い込み」はお奨めの一品です。寄せエサは少々配合が違っても集魚効果が大切なのは繰り返し加減で効果が左右されることです。必ず釣り場の水で練り、水は控えめにパサパサの状態に仕上げ、20〜30分で完全にバラけるように作るのがコツです。

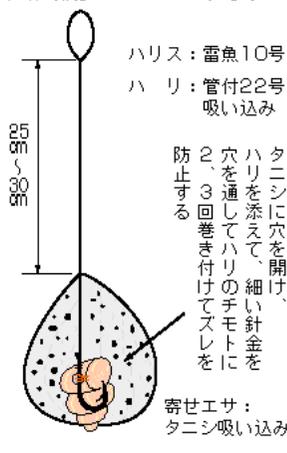
くらの距離であれば手でダンゴを投げ入れます。30m以上離れた同じポイントへ正確に打ち込むにはオモリに練りエサを包み、両手に水を付け強く握り固め、テニスボールくらいのダンゴにして竿を使って打ち込みます。ダンゴが着底したら竿先を大きくあおればオモリから寄せエサが外れます。数回繰り返したらくわせの付いたダンゴ仕掛けを投入してアタリを待ちます。

アタリがない場合は匂いの強い配合エサにしたり、エサを打つポイントを変えたりして攻めの釣りを展開しましょう。

が好きで昔は利根川専門でよく通いました。最近、利根川では時々アオウオ狙いで竿を出します。

アオウオのエサにタニシを使うようになってから、アオウオの数釣りが可能になりました。しかし、タニシは冬期は土の中に潜ってしまいがち、農薬などの影響でどこにもいるわけではありません。また釣り人による乱獲で採れなくなり、多量の入手が困難な状況です。

黒川流、アオウオ仕掛け



タニシでアオウオが釣れた理由の一つに、タニシをコマセで撒いて寄せる集魚効果があります。タニシが採れなくなった今、タニシに変わるアオウオ釣りのエサとして、匂いが強く集魚力の高い「タニシ吸い込み」「鯉タニシ」をお奨めします。大川のアオウオ狙いでは穏やかな流速を利用して、「タニシ吸い込み」「鯉タニシ」のマキエを広範囲に撒き、魚を寄せる集魚効果が重要です。食い渋りの魚には匂いで刺激を与え、食い

力の強い寄せダンゴを打ては良いでしょう。

この寄せエサの中には鯉やアオウオの大好物のタニシ粉末、タニシペレットが大量に配合されていて、タニシ特有の強い匂いと味を持続し、広範囲に魚を寄せる効果があります。その効果を証明するように、私も「タニシ吸い込み」を使い、利根川で一日にアオウオ2本を釣り上げることができました。「タニシ吸い込み」でアオウオを上げた実績は他にもたくさんあります。

みなさんも「タニシ吸い込み」で豪快なアオウオ釣りを充分に楽しんでみてはいかがでしょうか。